

2019年度 城南学園中学校・高等学校 学校評価のまとめ

1 自己評価

(1) 組織 学校評価委員会（校長、高校教頭、中学校教頭、事務局長、学校評価委員会担当教諭）

(2) 開催 2020年3月4日（水）

(3) 評価のために使用した資料

① 2019年度学校教育診断の結果（概要は資料1）

・実施：2019年12月

・対象：中学校・高等学校の全生徒、在校生の全保護者、全常勤教員

② 生徒による授業評価の結果

・第1回：2019年6月～7月

・第2回：2019年12月

③ その他

・「2019年度 教育の基本方針と取り組みの重点」（資料2）、校内各組織の総括（目標の達成状況）、生徒収容状況、進路決定状況、出席統計、部活動入部状況・活動実績等

(4) 内容

① 上記資料をもとに、年度当初に教職員に示した「教育の基本方針と取り組みの重点」（学校教育目標）について自己評価を行った。（下表）

② 自己評価に基づき学校関係者評価委員会の資料を作成した。

(5) 自己評価の結果（3月末時点で修正）

目標と取り組みの重点（P）	取り組みの状況（D）	自己評価（C）
1 学校の全体像に関わって		
① 10年先を見通した学校の将来像について検討する。	①生徒募集の観点から学校の将来像について検討した。	①前進できず
②高校において、新たなコースの設定、既存のコースのリニューアルを早急に進める。	②特進コース∞、進学スタンダードコース内にスポーツ探究ゾーン、キャリア探究ゾーンの2020年度起ち上げを決め、中身の概要を定めた。	②達成した
③建学の精神を踏まえ、校内各組織が「育てたい生徒像」「生徒に育みたい力」を共有し、目的と目標を明確にして個々の取り組みの充実に努める。	③中学校では『10×10（テン・バイ・テン）プラン』に、高校では各コース・学年の当初目標に「育てたい生徒像」「生徒に育みたい力」を掲げ、それぞれ取り組みを進めた。	③前進した
④ICT教育の効果的な指導方法を研究し、実施に努める。	④英語スピーキングテストを実施し、オンライン英会話を研究した。	④前進した
⑤各種会議を研修の場として積極的に活用する。	⑤テーマを設定した研修の試み、外部研修参加者による報告などが行われた。	⑤前進した
⑥生徒の健康と安全、学業との両立、働き方改革等の観点から部活動のあり方を検討する。	⑥文部科学省のガイドライン等に則り、「学校の部活動に係る活動方針」について検討している。	⑥前進した

<p>2 学力の向上と進路実現 100%をめざす (評価指標) 模試の結果向上 進路実現率前年度以上</p> <p>①言語活動の充実など授業の改革を進めるため、教科における研究活動を活性化し、研究授業や相互の授業参観を組織的に行う。</p> <p>②新学習指導要領の研究とその具体化について検討を進める。また、「総合的な探究の時間」について研究を進め、実施する。</p> <p>③新大学入試制度に対応した授業を推進し、入試問題の研究を一層活性化する。また、英語教育の改善・充実について検討を進める。</p> <p>④生徒の体験的な学びの機会と学習成果の発表の場を拡充する。そのため学園内外の教育機関・施設等との連携をさらに深める。</p> <p>⑤基礎学力の向上と家庭での学習習慣の定着を図るため、個に応じたきめ細かな指導に努める。中学校の各種取り組みや高校のeラーニングを組織的に進める。</p> <p>⑥3年間の進路指導計画に基づき、進路指導部・学年・コースが連携して1年次から生徒の進路意識の醸成に努める。</p> <p>⑦国公立大学と関関同立の合格者</p>	<p>模試の結果において、中学校と高校特進系コースには伸びが見られた。結果を分析し、各教科にフィードバックして対策を求めた。 進路実現率は96.2% (昨年度比+2.2ポイント)</p> <p>①各教科が研究授業を実施。期間を設定して相互の授業参観を行った。</p> <p>②各教科に新学習指導要領への対応の実施状況の論議、城南未来委員会へのレポート提出を求めた。 次年度新設の進学スタンダードコース各ゾーンの「総合的な探究の時間」の概要を定めた。</p> <p>③各教科に新大学入試制度への対応の実施状況の論議、城南未来委員会へのレポート提出を求めた。 各教科で入試問題の研究を行った。 英語4技能、中でもスピーキングの指導の検証、授業への導入を目的に他校視察を実施した。</p> <p>④中学校の「10×10プラン」、夏・冬の体験活動、総合的な学習の時間等。 高校では、特進系コースのアカデメイア（課題研究）、近畿大学英语村の利用、英語暗唱弁論大会、看護師体験等。幼児教育・福祉コースの保育・福祉のインターンシップの大幅拡充と発表会の実施。進学スタンダードコースの「進スタセミナー」、手帳甲子園・発表会の実施等。 学園内及び近畿大学、帝塚山大学、森ノ宮医療大学、東住吉森本病院等との連携を深めた。</p> <p>⑤学習時間調査を実施。中学校、高校幼児教育・福祉コース、進学スタンダードコースでのビジネス手帳の活用。 数学・英語の振り返り学習でeラーニングを活用。実施にあたっては当該教科担当があたった。</p> <p>⑥当初の指導計画どおり実施した。</p>	<p>学力向上はコースで差がある 進路実現率は達成した</p> <p>①前進した</p> <p>②前進した</p> <p>③前進した</p> <p>④前進した</p> <p>⑤前進した</p> <p>⑥前進した</p> <p>⑦概ね達成し</p>
---	--	--

<p>15名（実数）以上、大阪総合保育大学への進学者5名以上、大阪城南女子短期大学への進学者80名以上をめざす。また、看護特進コース生徒の希望進路の実現に努める。</p>	<p>⑦国公立大学と関関同立に12名（実数）が合格。 大阪総合保育大学には14名合格8名進学、大阪城南女子短期大学へは77名が進学した。 看護特進コースは1名を除き進路決定。学校全体で看護系大学・学部には15名、看護系短大に6名、看護系専門学校に8名が合格した。</p>	<p>た</p>
<p>3 「自主自律」の態度の育成と「清和気品」のマナーの徹底 (評価指標) 学校教育診断の結果80%以上 欠席・遅刻率の低下</p> <p>①朝の読書活動の一層の充実と活性化を図り、自ら学ぶ姿勢を育成するとともに読解力・表現力の向上にも資する。また、ビブリオバトルについても推進する。</p> <p>②年間重点目標として「挨拶」を掲げ、全教職員で指導するとともに生徒自治会等の取り組みのもと、生徒の自発的な挨拶を促す。授業規律、服装、欠席・遅刻、交通マナー、ネットマナー等の指導を組織的に進め、基本的な生活習慣と社会人としてのマナーの確立を図る。特に欠席・遅刻の減少に努める。</p> <p>③学校行事における生徒の主体的取り組みを促進する。また、自治会活動や部活動、ボランティア活動など生徒の自主的な活動を促進する。特に部活動の参加率の一層の向上に努める。</p>	<p>学校教育診断の結果 「校則を守り、規則正しく生活している」 中学生51%、高校生60%、教員44% 中学生保護者74%、高校生保護者80% 欠席・遅刻率 中学生は欠席率低下、遅刻率上昇 高校生は欠席率・遅刻率ともに上昇</p> <p>①一年を通じて「朝の読書」を実施。年5回の読書週間には全校でビブリオバトルに取り組んだ。</p> <p>②生徒指導部、同自治会係が中心となり、生徒自治会、各運動部・文化部を巻き込んで1年を通じて「挨拶運動」を実施した。定期的に全教職員で登下校指導等を実施。全校集会でネットマナー、高1学年集会で薬物乱用防止について指導。学年と生徒指導部で欠席・遅刻の多い生徒の指導を行った。</p> <p>③学校行事は当初の予定通り実施した。 学校教育診断での関連項目（「学校行事は、みんな楽しく行えるよう工夫している」「本校の自治会活動は活発である」「本校の部活動は活発である」）において、中学生は向上、高校生はやや低下。 (部活動参加率) 中学校88%（昨年度比+3ポイント） 高校43%（昨年度比-6ポイント） (中学校の部活動) テニス部が全国大会（全中）で団体準優勝。空手道部、弓道部が全国大会に出場、体操部・バレーボール部が近畿大会に出場した。 (高校の部活動) テニス部、空手道部、体操部が全国高校総体（インターハイ）に出場。テニス部が全日本ジュニア選手権でシングルス優勝。空手道部が国体少年女子組手で優勝。パソコン部が全</p>	<p>生徒・教員は達成できず 保護者は概ね達成 中学生の欠席率は達成、他は達成できず</p> <p>①前進した</p> <p>②やや前進した</p> <p>③前進できず</p>

	国大会に出場、ソフトテニス部・バレーボール部が近畿大会に出場した。	
<p>4 明るい学校づくりと生徒・保護者の「学校満足度」の向上 (評価指標) 学校教育診断の結果 80%以上 授業評価アンケートの結果</p> <p>①各教科で授業評価アンケートの結果も活用して授業の充実・改善に努め、生徒の「授業満足度」の向上を図る。</p> <p>②すべての教育活動を通じて人権に関する教育を一層充実する。教育を受ける権利の保障、人権が尊重された教育を進めるために、特に、いじめの未然防止に努める。面談などを通じて生徒の状況把握に努め、相談等に丁寧に対応することで生徒と教員の距離を縮める。</p> <p>③生徒の声に耳を傾け、双方向的対話の中から生徒の能動的な学校生活を支援する。</p> <p>④保護者への情報提供に努め、保護者からの相談等に丁寧に対応することで連携を深める。</p>	<p>学校教育診断の結果 「授業内容に満足している」 中学生 78%、高校生 65% 「入学してよかった」「入学させてよかった」 中学生 76%、高校生 64% 中学生保護者 92%、高校生保護者 80%</p> <p>①授業評価アンケートの結果は昨年度に比べて、第1回は向上、第2回は維持した。結果は教科にフィードバックした。</p> <p>②3年間計画に基づき、人権HR、人権教育映画、人権講話などを実施した。年3回の面談、いじめに関するアンケート調査を実施、いじめ防止対策委員会の開催等はいじめの防止に努めた。学校教育診断の結果は、中学生が昨年度より向上した。</p> <p>③生徒指導部が具体的な指導の中で、「傾聴」を心掛け、部員を中心に教員全体に意思統一を図った。若手教員を対象に、「傾聴」について研修を実施した。</p> <p>④HP、学年だより、メール等での情報発信に努めた。年2回の懇談会、授業参観、行事の公開等を行った。学校教育診断での関連項目（「学校は、家庭への連絡や意思疎通をきめ細かく行っている」「学校は、保護者の相談に快く応じている」）の低下が見られる。</p>	<p>生徒はいずれも達成できず 保護者は達成</p> <p>①前進した</p> <p>②前進した</p> <p>③前進した</p> <p>④前進できず</p>
<p>5 中学校 50 名、高等学校 280 名の定員充足</p> <p>①中学校及び高校各コースの取り組みを積極的に広報するとともに、学習成果の発表の場の公開に努める。また、生徒募集に有効な新たな取り組みについても検討を進める。</p> <p>②部活動において、他との交わりを深め生徒募集に繋げる。</p>	<p>中学校 33 名、高校 126 名が入学予定</p> <p>①特進系「アカデメイア（課題研究）発表会」を一般公開。幼児教育・福祉コース「発表会」等の保護者への公開を実施した。幼児教育・福祉コース生徒の学習成果の発表を兼ねて「保育フェスタ」を実施した。高校の新たな募集対策として、SNSによる発信を始めた。</p> <p>②小学生、中学生を招いての試合、合同練習を実施。</p>	<p>中学校・高校とも達成できず</p> <p>①前進した</p> <p>②前進した</p>

<p>③中学生の内部進学率の向上に努める。</p> <p>④入試対策部・広報室及び広報活動推進委員会を中心に全教職員一人一人が意識して広報活動を推進する。また、広報活動への生徒の参画を促進する。</p>	<p>部活動顧問による推薦制度を実施。</p> <p>③担任以外の教員も生徒と面談を行った。 25名中17名(68%)が内部進学(昨年度60%)</p> <p>④外部相談会、塾訪問に関わる人員を増員した。「広報の現状」をテーマとして、教職員研修会を実施。 校内での募集イベントは広報活動推進委員会が企画し、全教職員の協力を得て実施した。また、生徒が参加する場面を増やした。</p>	<p>③前進した</p> <p>④前進した</p>
---	--	---------------------------

2 学校関係者評価

(1) 組織 学校関係者評価委員会

構成 (敬称略)

大阪城南女子短期大学長・西川仁志 (委員長)

城南学園小学校長・山北浩之

保護者会代表・山本敏代

同窓会代表・新里陽子

地域代表・早苗順一

学校委員 (校長、高校教頭、中学校教頭、事務局長、学校評価委員会担当教諭)

(2) 開催 2020年3月13日 (金)

(3) 評価のために使用した資料

自己評価の結果及び学校評価委員会で使用した資料、学校関係者評価委員会設置要綱

(4) 内容

- ① 校長及び高校教頭、中学校教頭から、「2019年度 教育の基本方針と取り組みの重点」に沿って、自己評価の結果を報告し、質疑応答と協議を行った。
- ② 協議の内容を事務局で取りまとめた。(主な協議の内容は資料3)

3 今後の改善方策 (A)

1 学校教育目標のマネジメントサイクルの推進

- 自己評価及び学校関係者評価の結果等をもとに、新年度の学校教育目標である「教育の基本方針と取り組みの重点」を策定し、年度当初に教職員に周知する。
- 学校教育目標を踏まえ、校内各組織が年度目標と実施計画を作成して取り組みを進める。
- 10月末にその進捗状況、2月末に達成状況の報告を求め、それを受けて年度末に学校教育目標の自己評価を行う。このマネジメントサイクルを効果的に運用することにより、高いレベルでの目標の達成をめざす。

2 主要教育課題に対する取り組み

(1) 学校の全体 (未来) 像に関わって

- ①長期的な学校の将来像とともに中期計画について検討する。
- ②新設の特進コース∞、進学スタンダードコース内スポーツ探究ゾーン、キャリア探究ゾーンを軌道

に乗せる。

- ③建学の精神を踏まえ、校内各組織が「育てたい生徒像」「生徒に育みたい力」を共有し、目的と目標を明確にして個々の取り組みを一層充実する。
- ④整備されたICT機器の一層の積極的な活用を図る。
- ④会議における研究活動を促進する。
- ⑤文部科学省のガイドライン等をふまえ、「学校の部活動に係る活動方針」を策定する。

(2) 学力の向上と進路実現 100%をめざす

- ①研究授業や相互の授業参観を組織的に行い、教科における研究活動を活性化する。
- ②新学習指導要領の具体化を進める。
- ③新大学入試に対応した授業を推進し、入試問題の研究を進める。また英語教育の改善・充実を図る。
- ④学園内外の教育機関・施設との連携によって拡充してきた生徒の体験的な学びを円滑に進めるとともに、学習成果の発表の機会を充実する。
- ⑤基礎学力の向上と家庭での学習習慣の定着を図るため、個に応じた指導を一層充実する。
- ⑥進路指導部と学年、コースが一層緊密に連携して、1年次から生徒の進路意識の醸成に努める。
- ⑦引き続き数値目標を掲げて学力の向上に取り組む。併せて目標達成のための具体的方策を検討し実施する。

(3) 「自主自律」の態度の育成と「清和気品」のマナーの徹底

- ①朝の読書の徹底により、読書活動の活性化を図る。
- ②引き続き年間目標を掲げて全校で取り組む。欠席・遅刻については学年で数値目標を掲げて減少に努める。
- ③学校行事の企画段階への生徒の参画を一層進め、生徒の主体的取り組みを促す。また、自治会活動や部活動、ボランティア活動など生徒の自主的な活動を促進する。特に部活動の参加率の一層の向上に努める。

(4) 明るい学校づくりと生徒・保護者の「学校満足度」の向上

- ①授業評価アンケートの結果を教科、当該教員にフィードバックすることで授業の充実改善に努め、生徒の「授業満足度」の向上を図る。
- ②すべての教育活動を通じて人権教育を一層推進する。特に、面談やアンケート調査などによって生徒の状況を把握し、いじめの未然防止と早期発見に努める。また、生徒の相談に丁寧に応じることで生徒と教員の距離を縮める。
- ③生徒の声に耳を傾け、双方向的な対話の中から能動的な学校生活を支援する。
- ④様々な方法で保護者への情報提供に努め、保護者からの相談に丁寧に対応することで、教育方針や教育内容への理解を図る。

(5) 中学校及び高等学校の定員充足

- ①中学校および高校各コースの取り組みの広報と、学習成果発表の場の公開を一層推進する。また、効果的な生徒募集の取り組みについて検討し実施する。
- ②部活動において、他との交わりを深め、生徒募集に繋げる。
- ③全校を挙げて内部進学率の向上に取り組むとともに、内部進学を促進する制度面の検討を行う。
- ④入試対策部・広報室及び広報活動推進委員会を中心に、全教職員による広報活動を一層推進する。また、塾訪問・外部相談会の体制を強化する。

4 参考資料

(資料1)

学校教育診断票の結果について

昨年12月に実施いたしました「学校教育診断票」の結果について概略を報告いたします。

【データの回収】

生徒694名、保護者631名のデータを回収しました。特に保護者の皆様には90%以上の回答をいただき、より信頼度の高いデータにすることができました。ご協力ありがとうございました。

【保護者データ】

肯定意見（「よくあてはまる」「ややあてはまる」を合わせた意見、以下同様）が平均で80%以上と高い評価をいただけたと感じています。特に「学校の施設・設備は学習環境の面で満足できる」では中学校・高校とも90%以上の肯定意見をいただきました。最も気になる設問「入学させて良かった」は、高校で80%、中学校で92%の肯定意見をいただきました。

高い評価をいただいた中、「生徒のいろいろな問題を見逃さず対応している」や「家庭への連絡や意思疎通をきめ細かく行っている」等の設問は肯定意見が70%台と若干少ない傾向でした。

【生徒データ】

高校では学年やコースによって評価にばらつきがあります。全体としては「本校の部活動は活発である」の85%、「学校は進路に関する情報を適切に提供するなど生徒の進路実現に積極的に取り組んでいる」の2設問で肯定意見が80%を超えています。

中学校では「本校の部活動は活発である」の95%をはじめ、「自分のクラスは楽しい」「本校の生徒自治会活動は活発である」の3設問で肯定意見が90%を超え、「本校には他校と異なる城南学園らしい特色や良さがある」「学校行事はみんなが楽しく行えるように工夫している」等、7設問で80%を超える肯定意見でした。

評価が高くない設問もいくつかありました。中高ともに生徒指導関係の設問において肯定意見の少ない傾向が見られました。

今回の「学校教育診断票」で得られた結果を、学年・校務分掌・コースなど各部門で慎重に検討し、また過年度のデータを照合しながら、生徒の動向把握に全教員で努めて参ります。そして、より高い信頼を得られる教育活動の推進と教育環境の整備に力を注いで参ります。

保護者の皆様におかれましては、本校のこの姿勢にご理解をいただき、今後も変わらぬご協力をお願いいたします。

(2020年2月発行の校報『城南第79号』より転載)

(資料2)

2019年度 教育の基本方針と取り組みの重点

2019年4月24日

学 校 長

I はじめに

学校教育の目標は、生徒が将来、社会人として自らの使命を果たし、自らの幸福を実現できるよう、その基盤となる学力と健康な心身、さらには真に自立的な態度を育成するところにある。これは、本校創立者の設立の思いである「社会で活躍できる女性の育成」という言葉に集約される。本校の建学の精神である「自主自律」「清和気品」は、教育目標を達成するための具体的な指針である。われわれの教育活動が成果を上げるためには、本校の特色を鮮明にして全教職員が同じ教育目標「社会で活躍できる女性の育成」を共有することが重要である。よって本年度の基本方針と取り組みの重点を次のとおり策定する。

II 基本方針と目標

1. 将来、一人ひとりが社会的使命を果たせる生徒の育成を図る。そのため、中学校においては「10×10プラン」を一層推進する。高校においては各コースの特性を全面的に生かして多様な生徒に対応した教育を実践し、学力の向上と進路実現100%をめざす。
2. 生徒にとって生涯の基軸となる、よき生活習慣を身につけさせる。そのため「自主自律」の態度を育成するとともに、「清和気品」のマナーを徹底させる。
3. 教職員が相互に高め合う職場づくりを進め、授業の充実改善に努める。また、明るい学校づくりに取り組み、生徒・保護者の「学校満足度」を向上させる。
4. 全教職員が一丸となって広報・募集活動を推進し、中学校及び高等学校の定員充足をめざす。

Ⅲ 取り組みの重点

1. 学校の全体像に関わって

- (1) 10年先を見通した学校の将来像について検討する。
- (2) 高校において、新たなコースの設定、既存のコースのリニューアルを早急に進める。
- (3) 建学の精神を踏まえ、校内各組織が「育てたい生徒像」「生徒に育みたい力」を共有し、目的と目標を明確にして個々の取り組みの充実に努める。
- (4) ICT教育の効果的な指導方法を研究し、実施に努める。
- (5) 各種会議を研修の場として積極的に活用する。
- (6) 生徒の健康と安全、学業との両立、働き方改革等の観点から部活動のあり方を検討する。

2. 学力の向上と進路実現100%をめざす

- (1) 言語活動の充実など授業の改革を進めるため、教科における研究活動を活性化し、研究授業や相互の授業参観を組織的に行う。
- (2) 新学習指導要領の研究とその具体化について検討を進める。また、「総合的な探究の時間」について研究を進め、実施する。
- (3) 新大学入試制度に対応した授業を推進し、入試問題の研究を一層活性化する。また、英語教育の改善・充実について検討を進める。
- (4) 生徒の体験的な学びの機会と学習成果の発表の場を拡充する。そのため学園内外の教育機関・施設等との連携をさらに深める。
- (5) 基礎学力の向上と家庭での学習習慣の定着を図るため、個に応じたきめ細かな指導に努める。中学校の各種取り組みや高校のeラーニングを組織的に進める。
- (6) 3年間の進路指導計画に基づき、進路指導部・学年・コースが連携して1年次から生徒の進路意識の醸成に努める。
- (7) 国公立大学と関関同立の合格者15名（実数）以上、大阪総合保育大学への進学者5名以上、大阪城南女子短期大学への進学者80名以上をめざす。また、看護特進コース生徒の希望進路の実現に努める。

3. 「自主自律」の態度の育成と「清和気品」のマナーの徹底

- (1) 朝の読書活動の一層の充実と活性化を図り、自ら学ぶ姿勢を育成するとともに読解力・表現力の向上にも資する。また、ビブリオバトルについても推進する。
- (2) 年間重点目標として「挨拶」を掲げ、全教職員で指導するとともに生徒自治会等の取り組みのもと、生徒の自発的な挨拶を促す。授業規律、服装、欠席・遅刻、交通マナー、ネットマナー等の指導を組織的に進め、基本的な生活習慣と社会人としてのマナーの確立を図る。特に欠席・遅刻の減少に努める。
- (3) 学校行事における生徒の主体的な取り組みを促進する。また、自治会活動や部活動、ボランティア活動など生徒の自主的な活動を促進する。特に部活動の参加率の一層の向上に努める。

4. 明るい学校づくりと生徒・保護者の「学校満足度」の向上

- (1) 各教科で授業評価アンケートの結果も活用して授業の充実・改善に努め、生徒の「授業満足度」の向上を図る。
- (2) すべての教育活動を通じて人権に関する教育を一層充実する。教育を受ける権利の保障、人権が尊重された教育を進めるために、特に、いじめの未然防止に努める。面談などを通じて生徒の状況把握に努め、相談等に丁寧に対応することで生徒と教員の距離を縮める。
- (3) 生徒の声に耳を傾け、双方向的対話の中から生徒の能動的な学校生活を支援する。
- (4) 保護者への情報提供に努め、保護者からの相談等に丁寧に対応することで連携を深める。

5. 中学校及び高等学校の定員充足

- (1) 中学校及び高校各コースの取り組みを積極的に広報するとともに、学習成果の発表の場の公開に努める。また、生徒募集に有効な新たな取り組みについても検討を進める。
- (2) 部活動において、他との交わりを深め生徒募集に繋げる。
- (3) 中学生の内部進学率の向上に努める。
- (4) 入試対策部・広報室及び広報活動推進委員会を中心に全教職員一人一人が意識して広報活動を推進

する。また、広報活動への生徒の参画を促進する。

(資料3)

2020年度 学校関係者評価委員会 主な協議内容

中学校・高校での様々な教育活動の取り組みの充実ぶりに基づく「学力を伸ばす学校」という評価をいただいた。特に、国公立大学、難関私立大学への進学者数は圧巻であるとのこと。一方、矛先が大学進学に向けての指導（特進系コース）に傾倒しすぎていないか、とのご意見もいただいた。結果として、幼児教育・福祉コース、進学スタンダードコースの生徒たちの満足度が鈍り、それが高校生徒募集の苦戦に繋がっている可能性もあるとの指摘を頂戴した）。

現状として高校に入ってから徐々に目標を失い崩れていってしまう生徒がいるが、進学スタンダードコースに次年度新設の探究ゾーンにおける探究学習は、目標を持ち続けられる内容となっており、期待できるというご意見をいただいた。また、探究を取り入れることによって、教員が力を合わせて目標を達成していくきっかけになるのでは、との期待感も寄せられた。

女子の将来の進路として人気の高い、看護師、保育士を目指すコースが本校にはあり、実際のところの専門職への進路実現も達成できている。女性として社会の中でどう生きていくのかなど、女子のキャリア教育を売りにして、短大・大学との連携を生かしながら、女子の学校、面倒見の良い学校として頑張っていたいただきたい、との励ましの声もいただいた。